

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第25週（6月20日～6月26日）

## ★お知らせ

### ○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第24週の0.07から第25週では0.20と急増しています。須崎、中央西、幡多、高知市で増加し、高知県全域と安芸以外では注意報値を超えています。

病原体検出情報では*Bordetella pertussis*（百日咳菌）が2例検出され、定点医療機関からのホット情報でも3例の報告がされています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

### ○ヘルパンギーナに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第24週の0.80から第25週は1.33と増加しています。中央東、中央西、高知市で増加し、中央東、中央西では注意報値を超えています。

ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発しんを主症状とした感染症で、2～4日の潜伏期の後、突然の高熱、咽頭痛や咽頭発赤を呈し、口腔内に水疱や発赤が現れます。

2～4日で解熱し、7日程度で治癒しますが、高熱による倦怠感や口腔内の水疱が破れることによる痛みなどから、食事や水分を十分にとれず、脱水症状になることもあります。

合併症としては、熱に伴う熱性けいれんや、まれに髄膜炎や心筋炎が生じることがあります。

ヘルパンギーナの感染経路は咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによる飛まつ感染や、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介して口や眼などの粘膜に入って感染する経口・接触感染になります。予防には、手洗い、うがい、咳エチケットが有効です。

### ○夏型感染症（咽頭結膜熱（プール熱）・手足口病・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

夏型感染症が増加しています。

ヘルパンギーナに加えて、手足口病の定点医療機関当たりの報告数も第24週の0.57から第25週は1.03と増加しています。

また、咽頭結膜熱の定点医療機関当たりの報告数は第24週の0.37から第25週は0.23と減少していますが、引き続き注意が必要です。

これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します。幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

また、咽頭結膜熱は別名プール熱とも呼ばれるなど、プールでの感染が多い疾病です。うがい、手洗い等の予防対策に加えて、プールの前後はシャワーをよく浴びる等して、感染予防に努めましょう。

### ○伝染性紅斑（リンゴ病）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第24週の0.27から第25週では0.37と増加しています。中央西、高知市では増加し、安芸では2週連続で注意報値を超えています。

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。10日から20日の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発しんが出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発しんが現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（特に妊娠初期）に感染した場合、まれに胎児の異常（胎児水腫）や流産が生じることがあるので注意が必要です。伝染性紅斑は、飛沫感染や接触感染をします。予防は手洗い、咳エチケットです。

## ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第24週の3.57から第25週では3.57と横ばいですが、中央東、幡多で増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス1例、ロタウイルス胃腸炎1例、カンピロバクター4例、サルモネラ腸炎1例、病原性大腸菌3例、E. Coli 0-166 検出胃腸炎1例の報告があります。

感染性胃腸炎の予防には、手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には、石けんでよく手を洗い、タオルは共用せず専用のもにしましょう。感染した人の便やおう吐物には、直接触れないよう、使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処分してください。

高温多湿な季節となりました。細菌性の食中毒予防の3原則（**食中毒菌を付けない、増やさない、やっつける**）です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱（85℃で1分以上）は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけて下さい。

## ○流行性耳下腺炎（おたふく風邪）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第24週の0.90から第25週では0.77とほぼ横ばいですが、高知市、中央東で増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、ムンプス髄膜炎（無菌性髄膜炎）1例の報告があります。

流行性耳下腺炎は3～6歳の小児に多い感染症です。潜伏期間は2～3週間程度で、突然の発熱、両側、片側の耳の下の腫れと痛みが起きます。通常1～2週間で軽快しますが、まれに無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎等の合併症を起こすことがあります。感染しても症状が現れない不顕性感染が30%程度あるとされています。

感染経路は患者の咳やくしゃみ、しぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。予防対策には、手洗い、うがいを励行しましょう。また、任意による予防接種がありますので、かかりつけの医療機関にお尋ねください。

## ☆マダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

日本紅斑熱1例の届け出がありました。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）はマダニが媒介する感染症です。

すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、ダニに咬まれないようにすることが感染の予防になります。

**野山や畑、草むらなどに出かけるときは、次のことに注意しましょう。**

- 肌を出さないよう、長袖、長ズボン、長靴、帽子、手袋等を着用しましょう。
- マダニ用の忌避剤（防虫スプレー）の使用も効果的です。
- 帰宅後は、すぐに入浴してマダニに咬まれていないか確認し、新しい服に着替えましょう。
- 野外から帰った犬や猫はダニが付着している可能性があるため、よく見てあげましょう。
- 吸血中のマダニを見つけたら、無理に引き抜こうとするとせず、医療機関で処置してもらいましょう。

### 発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また、受診の際に発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

- 高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

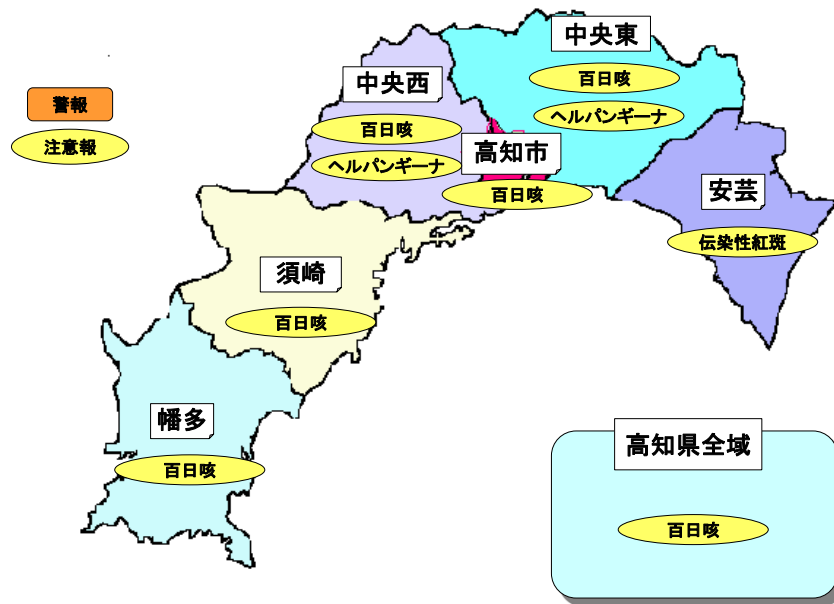
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減  
 25週（6月20日～6月26日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	3.57	中央東、幡多で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.40	中央西、高知市で増加しています。
ヘルパンギーナ	↗	1.33	中央東、中央西、高知市で増加し、中央東、中央西では注意報値を超えています。
手足口病	↗	1.03	中央西以外で増加しています。
流行性耳下腺炎	→	0.77	高知市、中央東で増加しています。

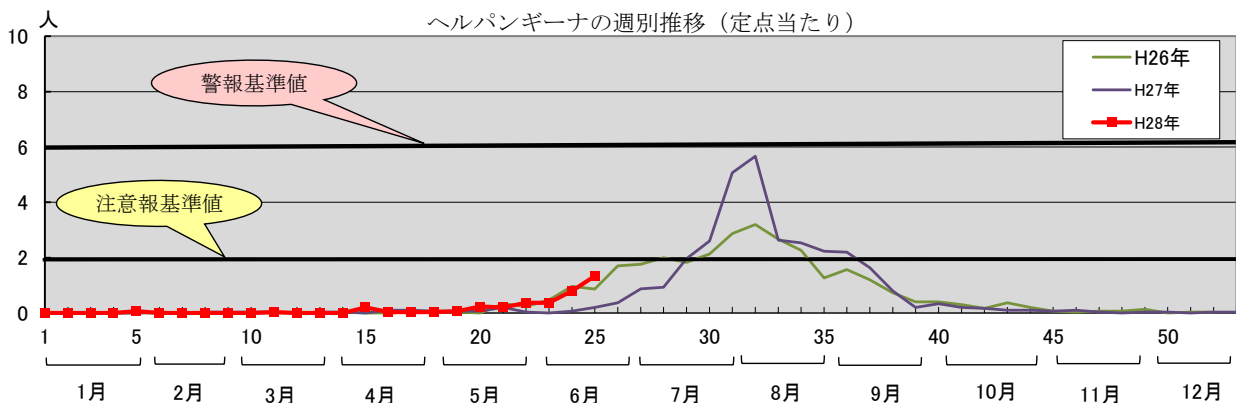
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

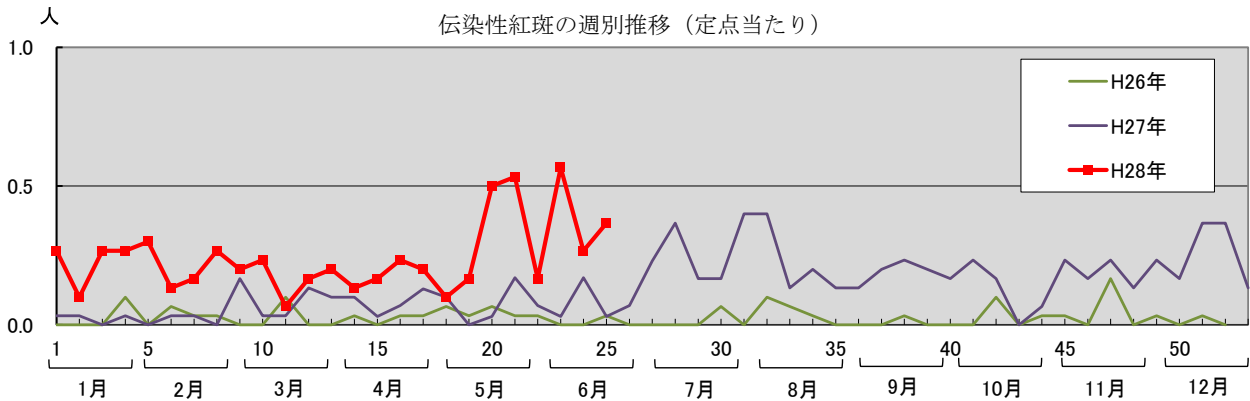
○ヘルパンギーナ 第25週： 1.33 （注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.33（前週：0.80）と増加しています。中央東2.71（前週：1.14）、中央西2.00（前週：1.67）、高知市1.09（前週：0.45）で増加し、中央東と中央西では注意報値を超えています。



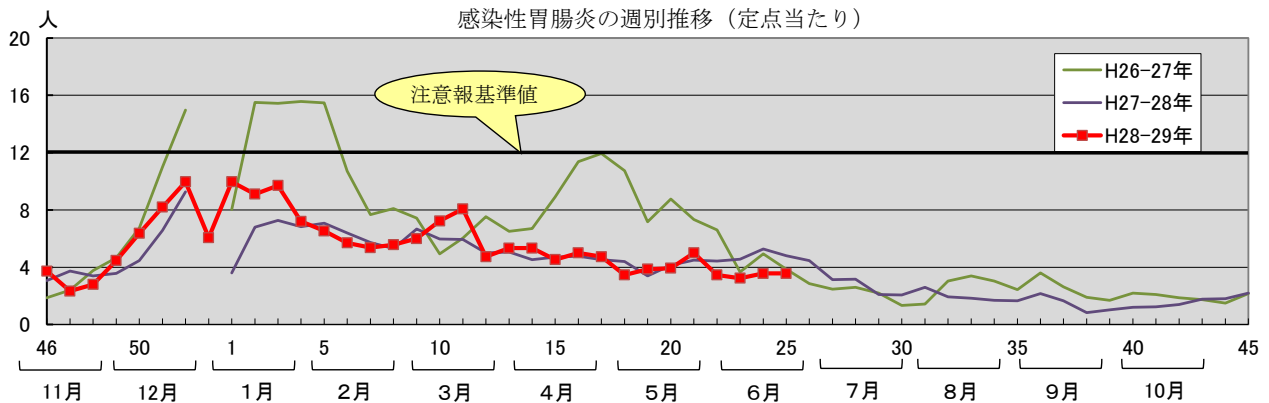
○**伝染性紅斑 第25週： 0.37** (注意報値：1.00 警報値：2.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.37(前週：0.27)と増加しています。中央西0.67(前週：0.33)、高知市0.64(前週：0.36)で増加し、安芸では1.00(前週：1.00)と注意報値を超えています。



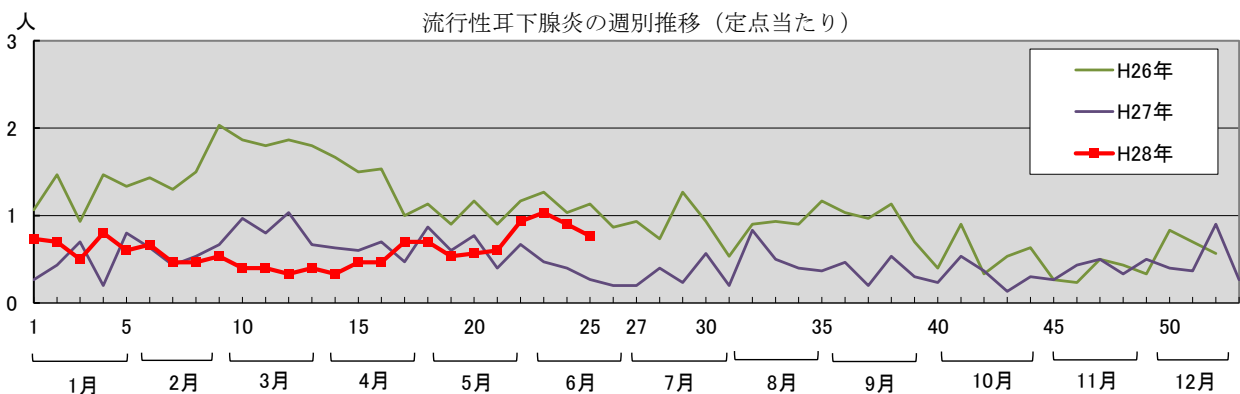
○**感染性胃腸炎 第25週： 3.57** (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり3.57(前週：3.57)と横ばいです。中央東4.43(前週：3.57)、幡多3.60(前週：2.00)で増加しています。



○**流行性耳下腺炎 第25週： 0.77** (注意報値：3.00 警報値：6.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.77(前週：0.90)とほぼ横ばいです。高知市0.36(前週：0.27)、中央東0.14(前週：0.00)で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、今週よりグラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★**病原体検出情報**

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
25	百日咳	10	女	中央東	<i>Bordetella pertussis</i>
25	百日咳	14	男	幡多	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
22	上気道炎	1	男	中央東	Rhinovirus
24	上気道炎	11ヶ月	男	高知市	Epstein-Barr virus
24	感染性胃腸炎	1ヶ月	女	高知市	Human herpes virus 6
24	手足口病疑い	4	男	須崎	Rhinovirus

★全数把握感染症

第25週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	56	40歳代男	高知市
		1	57	70歳代女	中央西
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	60歳代女	須崎
4類	日本紅斑熱	1	7	60歳代男	高知市
	レジオネラ症	1	2	50歳代男	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	ヒトメタニューモウイルス気管支肺炎1例（1歳女）
中央東	あけぼのクリニック	カンピロバクター腸炎1例（10歳）
		ロタウイルス胃腸炎1例（1歳）
		マイコプラズマ肺炎1例（31歳）
		百日咳1例（10歳 LAMP法陽性）
	おひさまこどもクリニック	アデノウイルス咽頭炎1例（1歳女）
		マイコプラズマ核酸同定陽性1例（11歳女）
野市中央病院小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症「陽性」1例（3歳女）	
高知大学医学部附属病院小児科	ムンプス髄膜炎1例（8歳男）	
早明浦病院小児科	E.Coli 0-166検出胃腸炎1例（2歳男）	
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎6例 （4歳男、5歳男、7歳男女、10歳男、12歳男）
		帯状疱疹1例（7歳女）
		アデノウイルス扁桃炎4例（0歳男女、1歳女、8歳女）
		カンピロバクター腸炎2例（6歳女、11歳男）
		百日咳1例（10歳女 PT-IgG149EU/ml）
		ヒトメタニューモウイルス肺炎1例（1歳女）
	細木病院小児科	ノロウイルス1例（1歳男）
		カンピロバクター1例（5歳男）
	三愛病院小児科	アデノウイルス感染症1例（1歳男）
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑1例（3歳男）
水痘2例（ワクチン未接種）		
高知医療センター小児科	溶連菌感染症6例	
	病原性大腸菌3例（0ヶ月男、1ヶ月女、2ヶ月女）	
中央西	石黒小児科	流行性耳下腺炎1例 （13歳男：おたふくワクチン1回接種済み）
	日高クリニック	百日咳1例（19歳男 PT-IgG478EU/ml）
須崎	もりはた小児科	ヒトメタニューモウイルス肺炎1例（1歳女）
		アデノ扁桃炎2例（4歳女）
		サルモネラ腸炎1例（12歳女）
幡多	幡多けんみん病院小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症陽性2例（1歳男2人）
	さたけ小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症4例 （0歳男、3歳男女、5歳男）
		膿痂疹3例（2歳女、4歳男、5歳男）

## ■ジカウイルス感染症の定義と発生届について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行令が一部改正され、平成 28 年 2 月 15 日からジカウイルス感染症が全数報告の対象となる四類感染症となりました。

診断した医師は直ちに最寄りの保健所又は福祉保健所に届け出ることをお願いします。

- 国立感染症研究所 ジカウイルス感染症のリスクアセスメント 2016 年 6 月 16 日更新

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

- 厚生労働省検疫所 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/index.html>

- 外務省 海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

- 国立国際医療研究センター ジカ熱/ジカウイルス感染症 2016 年 6 月 14 日更新

<http://www.dcc-ncgm.info/topic/topic-ジカウイルス感染症/>

- ジカウイルス感染症 定義 (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-04-44.html>

- ジカウイルス感染症 発生届様式 (PDF)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/pdf/01-04-44b.pdf>

- ジカウイルス感染症について (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

- 政府広報オンライン 何が危ない？どう防ぐ？ジカウイルス感染症 (ジカ熱) 予防のポイント

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201605/2.html>

- オリンピック・パラリンピックでブラジルへ渡航される方へ

<http://www.forth.go.jp/news/2016/02051708.html>

## ★全国情報

### 第23号 (6月6日～6月12日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核396例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症65例、腸チフス2例

4類感染症：E型肝炎6例、A型肝炎3例、エキノコックス症1例、ジカウイルス感染症1例、重症熱性血小板減少症候群2例、つつが虫病3例、デング熱6例、日本紅斑熱7例、マラリア3例、レジオネラ症24例

5類感染症：アメーバ赤痢14例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症11例、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、後天性免疫不全症候群21例、侵襲性インフルエンザ菌感染症5例、侵襲性肺炎球菌感染症29例、水痘 (入院例に限る) 4例、梅毒60例、播種性クリプトコックス症3例、破傷風4例、風しん7例、麻しん1例

報告遅れ：腸チフス1例、E型肝炎5例、エキノコックス症1例、重症熱性血小板減少症候群1例、チクングニア熱1例、ボツリヌス症1例、レジオネラ症3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症5例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘 (入院例に限る) 6例、梅毒30例、播種性クリプトコックス症4例、風しん5例

## ★注目すべき感染症

### ◆流行性耳下腺炎

流行性耳下腺炎（mumps：ムンプス、おたふくかぜ）は、ムンプスウイルスの感染を原因として発症する感染症である。2～3週間の潜伏期（平均18日前後）を経て発症し、片側あるいは両側性の唾液腺（耳下腺が最も多い）のびまん性腫脹、疼痛、発熱を主症状とし、2～7歳の小児に好発する。

不顕性感染が3分の1程度認められ、発症しても、通常は1～2週間で軽快する予後良好の疾患であるが、無菌性髄膜炎をはじめ、髄膜炎、難聴、睾丸炎、卵巣炎、膵炎等の種々の合併症を起こす場合がある。感染経路はヒト-ヒト間の飛沫感染、接触感染であり、特に保育施設等、ムンプスウイルスに免疫を持たない乳幼児の集団生活施設では、しばしば集団発生が認められている。

また成人での発症例では、髄膜炎、精巣炎、熱性痙攣、難聴、膵炎などの合併症によって入院を要する例が比較的多い。

流行性耳下腺炎は、感染症発生動向調査において全国約3,000カ所の小児科定点医療機関が週単位での届出を求められる5類感染症である。小児科定点からの報告に基づくため、成人における動向は不明である。

流行性耳下腺炎は2015年第20週頃から2016年第23週〔6月6～12日（6月15日現在）〕まで、増加傾向が続いている。

2016年第23週の定点当たり報告数は0.94（報告数2,978例）であり、過去3年間の同時期の定点当たり報告数（2013年0.30、2014年0.35、2015年0.48）を大きく上回っていた。過去10年間の同時期の定点当たり報告数と比較すると、流行性耳下腺炎が流行した2006年（1.76）、2010年（1.31）に次いで高い水準であった。

直近5週間の第19週から第23週までは、都道府県別では、流行性耳下腺炎の定点当たり累積報告数上位5位は宮崎県、山形県、佐賀県、鹿児島県、石川県であった。

この間の年齢群別では、5歳が最も多く、報告数の17%を占め、3～7歳が報告数の66%を占めた。性別は男児が53%と若干多かった。

また、全国約500カ所の基幹定点医療機関より、週毎に届け出られる5類感染症としての無菌性髄膜炎（ムンプスウイルスを含む多種多様な起因病原体による症候群）の定点当たり報告数は、第19週から第23週までは、過去5年間の平均+2SD（過去5年間の平均：前週、当該週、後週の合計15週の平均；SD：標準偏差）を上回っている。

2010～2016年（2016年は第1～23週）の期間、無菌性髄膜炎の報告数及びムンプスウイルス検出の報告数と割合は、以下であった。2010年：811例中112例（13.8%）、2011年：1,061例中101例（9.5%）、2012年：931例中58例（6.2%）、2013年：1,298例中18例（1.4%）、2014年：903例中19例（2.1%）、2015年：1,069例中39例（3.6%）、2016年（第23週まで）：465例中48例（10.3%）。2010～2011年と2016年現在までの流行性耳下腺炎の流行期には、無菌性髄膜炎のうち、ムンプスウイルス検出の報告数と割合は増加する傾向がみられた。

1982年以降の流行性耳下腺炎の週別定点当たり報告数の推移をみると、3～4年周期で大きな流行を認めていた。

1989年のMMRワクチンの導入により流行は縮小傾向を示したが、その後のMMRワクチンの中止とムンプス関連ワクチンの接種率の低下により流行性耳下腺炎の流行は再び増大傾向となり、以後およそ4～5年の周期で流行が見られている。

2016年は2010～2011年に次ぐ流行が見られており、ムンプスウイルスが検出された無菌性髄膜炎の報告数も増加傾向にある。

今後夏季にかけて患者数の多い状態が持続することが予想されるため、引き続きこれらの流行状況、発生動向に注意が必要である。

-----

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第25週 平成28年6月20日(月)～平成28年6月26日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第25週							計	前週	全国(24週)	高知県(25週末累計) H28/1/4～H28/6/26	全国(24週末累計) H28/1/4～H28/6/19
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ								( )	( )	363 ( 0.07)	14,926 ( 310.96)	1,582,008 ( 319.73)	
小児科	咽頭結核熱			1	4	1			7 ( 0.23)	11 ( 0.37)	2,285 ( 0.72)	111 ( 3.70)	32,204 ( 10.20)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	24	11			42 ( 1.40)	44 ( 1.47)	8,912 ( 2.82)	1,632 ( 54.40)	205,224 ( 64.99)	
	感染性胃腸炎		8	31	45	4	1	18	107 ( 3.57)	107 ( 3.57)	18,395 ( 5.82)	4,206 ( 140.20)	481,240 ( 152.39)	
	水痘		1	2	3			2	8 ( 0.27)	12 ( 0.40)	1,514 ( 0.48)	175 ( 5.83)	31,383 ( 9.94)	
	手足口病		1	13	13			2	31 ( 1.03)	17 ( 0.57)	1,092 ( 0.35)	99 ( 3.30)	5,773 ( 1.83)	
	伝染性紅斑		2		7	2			11 ( 0.37)	8 ( 0.27)	1,281 ( 0.41)	181 ( 6.03)	35,530 ( 11.25)	
	突発性発疹			2	7	2		1	12 ( 0.40)	10 ( 0.33)	1,806 ( 0.57)	234 ( 7.80)	34,632 ( 10.97)	
	百日咳			1	2	1	1	1	6 ( 0.20)	2 ( 0.07)	99 ( 0.03)	49 ( 1.63)	1,234 ( 0.39)	
	ヘルパンギーナ			19	12	6			40 ( 1.33)	24 ( 0.80)	2,881 ( 0.91)	113 ( 3.77)	8,900 ( 2.82)	
	流行性耳下腺炎			1	4	8	4		23 ( 0.77)	27 ( 0.90)	3,354 ( 1.06)	450 ( 15.00)	65,328 ( 20.69)	
RSウイルス感染症				2				2 ( 0.07)	3 ( 0.10)	262 ( 0.08)	581 ( 19.37)	23,485 ( 7.44)		
眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	5 ( 0.01)	( )	200 ( 0.29)	
	流行性角結膜炎								( )	( )	514 ( 0.74)	11 ( 3.67)	10,584 ( 15.34)	
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	14 ( 0.03)	2 ( 0.25)	211 ( 0.45)	
	無菌性髄膜炎				3			1	4 ( 0.50)	( )	31 ( 0.07)	13 ( 1.63)	496 ( 1.05)	
	マイコプラズマ肺炎				4			1	5 ( 0.63)	3 ( 0.38)	302 ( 0.64)	121 ( 15.13)	5,896 ( 12.44)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								( )	( )	2 ( )	25 ( 3.13)	180 ( 0.38)	
	感染性胃腸炎								( )	1 ( 0.13)	78 ( 0.16)	230 ( 28.75)	4,858 ( 10.25)	
計 (小児科定点当たり人数)		12 ( 6.00)	73 ( 10.43)	130 ( 11.17)	35 ( 11.67)	8 ( 4.00)	40 ( 7.60)	298 ( 9.64)			43,190	23,159 ( 571.99)	2,529,366	
前週 (小児科定点当たり人数)		16 ( 8.00)	55 ( 7.85)	117 ( 10.45)	33 ( 10.99)	7 ( 3.50)	41 ( 7.80)		268 ( 8.85)					

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第25週							計	前週	全国(24週)	高知県(25週末累計) H28/1/4～H28/6/26	全国(24週末累計) H28/1/4～H28/6/19
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ										0.07	310.96	319.73	
小児科	咽頭結核熱			0.14	0.36	0.33			0.23	0.37	0.72	3.70	10.20	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.43	2.18	3.67			1.40	1.47	2.82	54.40	64.99	
	感染性胃腸炎		4.00	4.43	4.09	1.33	0.50	3.60	3.57	3.57	5.82	140.20	152.39	
	水痘		0.50	0.29	0.27			0.40	0.27	0.40	0.48	5.83	9.94	
	手足口病		0.50	1.86	1.18		1.00	0.40	1.03	0.57	0.35	3.30	1.83	
	伝染性紅斑		1.00		0.64	0.67			0.37	0.27	0.41	6.03	11.25	
	突発性発疹			0.29	0.64	0.67		0.20	0.40	0.33	0.57	7.80	10.97	
	百日咳			0.14	0.18	0.33	0.50	0.20	0.20	0.07	0.03	1.63	0.39	
	ヘルパンギーナ			2.71	1.09	2.00		0.60	1.33	0.80	0.91	3.77	2.82	
	流行性耳下腺炎			0.14	0.36	2.67	2.00	1.20	0.77	0.90	1.06	15.00	20.69	
RSウイルス感染症				0.18				0.07	0.10	0.08	19.37	7.44		
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.29	
	流行性角結膜炎										0.74	3.67	15.34	
基幹	細菌性髄膜炎										0.03	0.25	0.45	
	無菌性髄膜炎				0.60			1.00	0.50		0.07	1.63	1.05	
	マイコプラズマ肺炎				0.80			1.00	0.63	0.38	0.64	15.13	12.44	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)											3.13	0.38	
	感染性胃腸炎								0.13	0.16		28.75	10.25	
計 (小児科定点当たり人数)		6.00	10.43	11.17	11.67	4.00	7.60	9.64			571.99			
前週 (小児科定点当たり人数)		8.00	7.85	10.45	10.99	3.50	7.80		8.85					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869